

④ 指導方法の実際

指導方法の実際

1. 訓練効果を高める話し方の極意
2. 実演指導の質を高めるための留意点
3. 効果的な板書と訓練用教材の活用法



④ 指導方法の実際

1. 訓練効果をも高める話し方の極意

視覚的な情報は強力ですが、使い方を誤ると逆効果になります。

準備と心構え

- 説明内容は深く理解・暗記し、訓練生のレベルに合わせた言葉や具体例（ストック）を準備します。
- 自信と熱意を持ち、相手と会話するような気持ちで、聞き取りやすい声で話します。

話し方のテクニック

- **アイコンタクト**：全員を見渡しながらかし、反応（理解度・関心）を確認します。テキストの棒読みは厳禁です。
- **「間（ま）」の活用**：考える時間を与え、話を分かりやすくするための「間」を意識します。
- **思考速度への配慮**：相手が情報を処理するスピードに合わせて話します。
- **既存の知識との結合**：専門用語は避け、相手の既存の知識や経験に結び付けて説明すると記憶に残ります。
- **繰り返し**：重要な点は、言い回しを変えながら何度も繰り返します（大声で強調するより効果的です）。

自身のスキルアップ

- 話し方は「練習」と「客観的評価」でのみ改善します。録画チェックや他者からのフィードバックを受け、「読む練習」ではなく「話す練習」を重ねましょう。
- 「えー」「そのー」などの口癖（ノイズ）は極力減らします。

2. 実演指導の質を高めるための留意点

「百聞は一見に如かず」ですが、単に作業を見せるのではなく、「指導としての実演」が必要です。

目的の明確化

- 「普段の仕事」を見せるのではなく、「**教えるための実演**」であることを意識します。
- 不要な動作は省き、必要な動作と順序だけをシンプルに見せます。

動作のポイント

- **ゆっくり、確実に**：訓練生が覚えられるスピードで。
- **反復性**：繰り返す時は、全く同じ手順・動作で行います。
- **口頭説明は最小限に**：実演中は動作に集中させ、言葉は補助にとどめます。

練習の重要性

- 実演の質は、**指導員の練習量**で決まります。スムーズで難しさを感じさせない実演ができるよう動作と説明の連携を練習してください。

3. 効果的な板書と訓練用教材の活用法

視覚的な情報は強力ですが、使い方を誤ると逆効果になります。

よく見させて、よく分からせて、よく慣れさせる、ことが大事です。

【訓練用副教材】


テキスト、自作資料、実習課題、取扱説明書、マニュアルなど

板書（プロジェクターを含む）の作法

可読性：一番後ろの席からでも見える大きさ・濃さで書きます。

タイミング：手早く書き、集中力を途切れさせないようにします。消す時は完全に消し、一言断ると丁寧です。

立ち位置：自分の体で文字を隠さないようにし、説明する時は必ず訓練生の方を向きます（板書に向かって話さない）。


**3 効果的な板書と訓練用教材の活用法**

板書（または視聴覚機器による投影）

いつ 何を 書くか
どのように 書き、いつ 消すかが重要

↓

板書（投影・掲示・提示）のスキル
練習し試行錯誤してこそ身に付く



教材・テキストの活用

「迷子」にさせない：全員が該当ページを開いているか確認し、今どこを説明しているかを常に明確にします。

配布物の管理：必要最低限にし、ファイリングのスキルも指導します。指導員も同じものを使用してください。

コスト意識（費用対効果）：訓練生に購入させたテキストは、一部しか使わない等の無駄を避け、十分に活用し切るよう工夫してください。訓練生は費用対効果をシビアに見ています。